



バス用機器  
製造

# バス利用を便利で快適にするための さまざまな機器を作っています。

株式会社小田原機器

本社/小田原市中町1-11-3 TEL.0465-23-0121 <https://www.odawarakiki.com>  
創業/1950(昭和25)年10月 従業員数/185名(2023年12月現在)



もっと、くわしく  
みてみよう!

## 私たちの仕事

行き先を表示する機械や、お金を入れたりICカードをタッチしたりする運賃箱など、バスに使われるさまざまな機器を作っています。便利で快適、そして安全なバス利用をサポートし、日本全国たくさんの地域の交通を支えています。



▲本社

## ? バスのどんな機器を作っているの?

次は	団地入口						001011	6
整理券	0	1	2	3	4	5	6	7
現金	320	270	210	210	180	180	180	180
IC	320	268	206	206	175	175	175	
整理券	8	9	10	11	12	13	14	15
現金								
IC								

音声合成案内装置

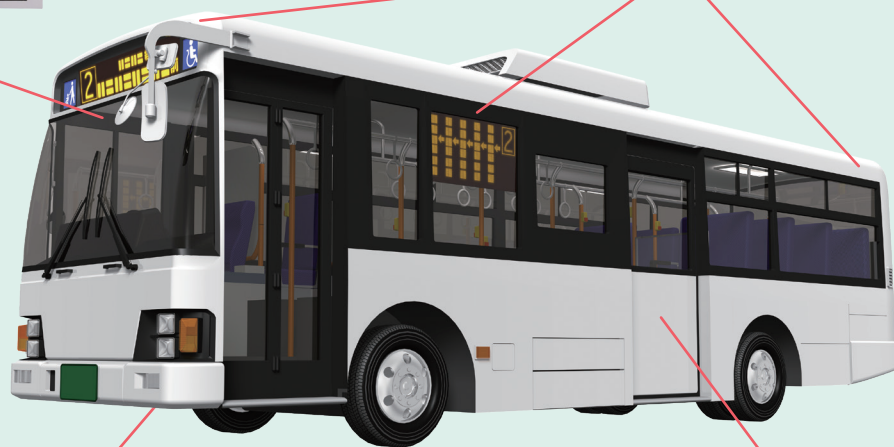
「次は小田原駅」など機械の声で知らせます。

LED行先表示器

バスの行き先を表示します。

液晶運賃表示器

バスの利用者さんに料金を表示します。



運賃箱

おりるときにお金を入れる機器です。ICカードやスマホでの支払いもできます。新しいお札(2024年に発行)にも対応!

サーマル整理券機・ICカードシステム

乗るときにICカードでタッチする機器です。整理券を発行する機器もあります。

## 運賃箱ができるまでの流れを見てみよう!

1 設計

お金に反応するセンサーのことや、お金の通り道の広さなどを考え、設計します。



2 組み立て

設計に合わせて、いろいろな部品を組み合わせていきます。ほとんど手作業で、丁寧に進めます。



3 テスト・完成



お金を入れて試してみます。問題が見つければ、原因を探して直します。

ICカードやスマホでの支払いも確認します!



## ずっと昔から、バスの運行を支えているんだって!

これは、1960年頃の整理券発行機です。当時の整理券は、コインの形をしたプラスチック。赤いレバーを押すと1枚出てきます。整理券の色の違いで、行き先と料金がわかるようにしていました。



営業部  
秋元 雅貴さん

## 働く人の声



製造部  
村山 新房さん

私は、バスの運賃箱などの機械を、お客さまであるバス会社などに販売する仕事をしています。バスを利用したときに、自分が販売した機械が使われているのを見ると、喜びを感じます。

私の主な仕事は、工場での作業が計画通りに進んでいるかを確認することです。バス旅のテレビ番組に自社の機械が出てくるとうれいですね。子どもにもわかりやすいので、父としても鼻が高いです。